

成田国際空港の概要



成田国際空港株式会社

2009年12月21日

Narita International Airport Corporation
All Rights Reserved.



成田空港の主な歩み

1

1963年12月 **航空審議会新空港候補地について答申（千葉県富里村）**

1966年 7月 **新東京国際空港公団発足**

1971年 9月 **第2次代執行警察官3名殉職（東峰十字路事件）**

1978年 3月 **過激派管制塔乱入（開港延期）**

5月 **成田空港開港**

1991年11月 **第1回成田空港問題シンポジウム開催**

1993年 9月 **第1回成田空港問題円卓会議開催**

2002年 4月 **暫定平行滑走路供用開始**

2004年 4月 **特殊会社化（成田国際空港株式会社発足）**

2006年 6月 **第1旅客ターミナルビル南ウインググランドオープン**

2008年 5月 **成田国際空港開港30周年**

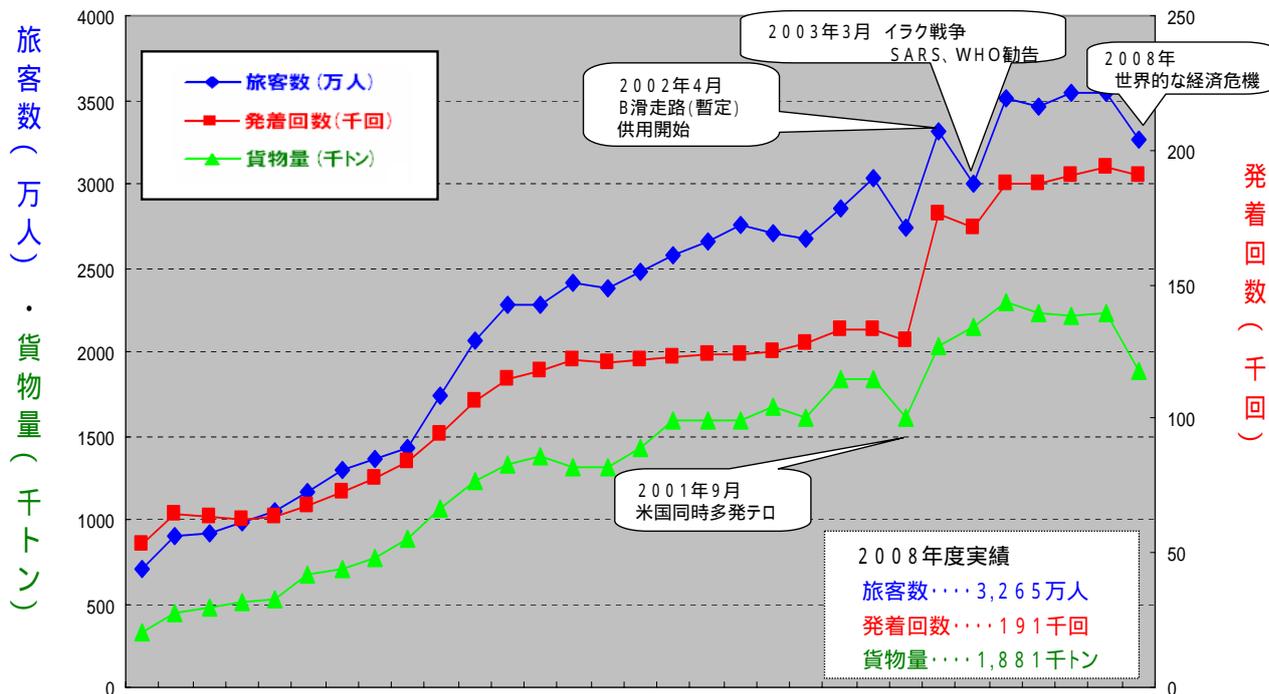
2009年10月 **B滑走路2500m化供用開始（22日）**

2010年 3月 **発着容量22万回へ2万回拡大**

7月 **成田新高速鉄道開業予定**

Narita International Airport Corporation
All Rights Reserved.

■ 開港時との比較では、**発着回数**が日平均約**3.1倍**、**旅客数**が日平均約**4.0倍**、**貨物量**は日平均約**4.9倍**となっている。 1978年度と2008年度における年間を通じた取扱量の1日平均の比較



Narita International Airport Corporation
All Rights Reserved.

欧州 11ヶ国 14都市 173便/週 乗客数: 3,548万人

2009年3月1日現在就航している都市
乗客数: 出典 ACI2007

国土交通省資料

- ・イギリス ・イタリア ・オーストリア
- ・オランダ ・スイス ・デンマーク
- ・ドイツ ・トルコ ・フィンランド
- ・フランス ・ロシア



Narita International Airport Corporation
All Rights Reserved.

欧州 12ヶ国 18都市 108便/週 乗客数: 3,142万人

2009年3月1日現在就航している都市
乗客数: 出典 ACI2007

国土交通省資料

- ・イギリス ・イタリア ・オーストリア
- ・オランダ ・スイス ・ドイツ
- ・トルコ ・フィンランド ・スペイン
- ・フランス ・ロシア ・チェコ

北米 2ヶ国 14都市 167便/週

- ・アメリカ ・カナダ



アフリカ・中東
3ヶ国 3都市 19便/週

- ・カタール ・エジプト
- ・アラブ首長国連邦

アジア
15ヶ国 55都市 971便/週

オセアニア
5ヶ国 7都市 65便/週

- ・オーストラリア ・グアム島
- ・ニュージーランド
- ・ニューゼーランド
- ・北マリアナ諸島 (サイパン)

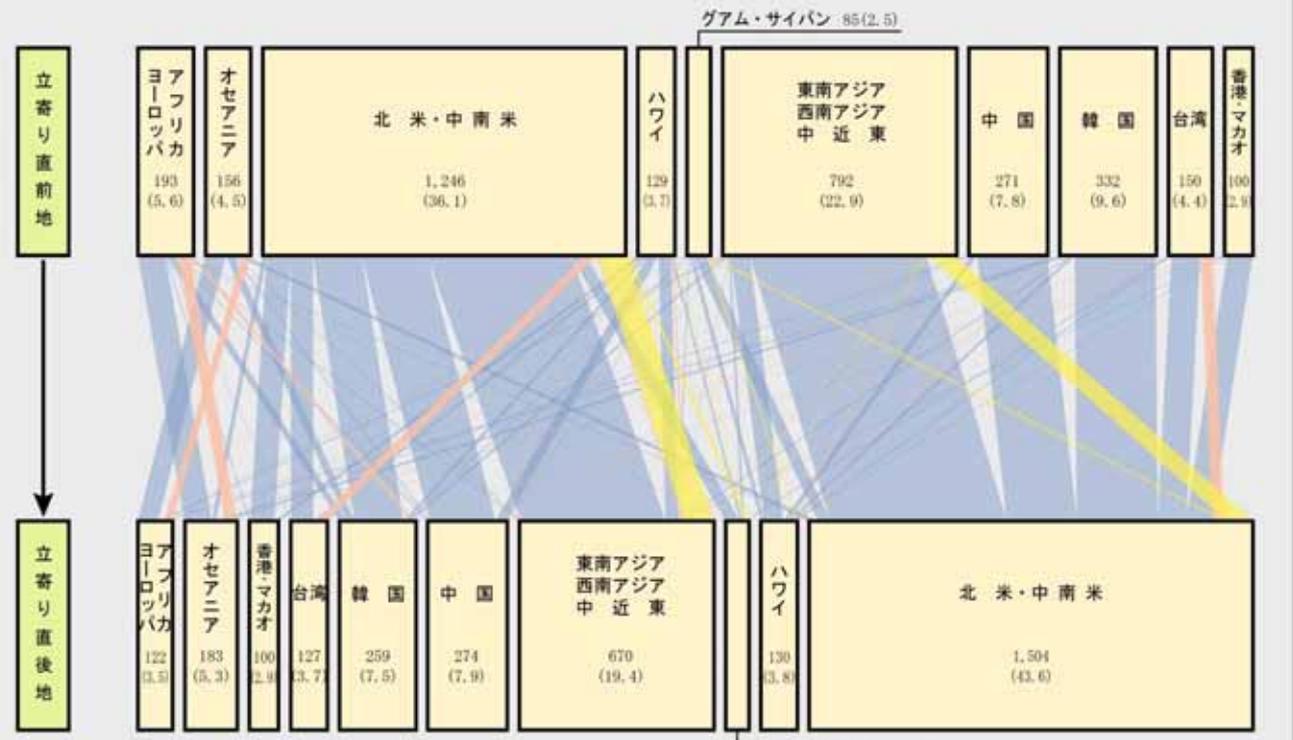
就航先(国際線)
38ヶ国、98都市 1333便/週
(日本便除く)



Narita International Airport Corporation
All Rights Reserved.

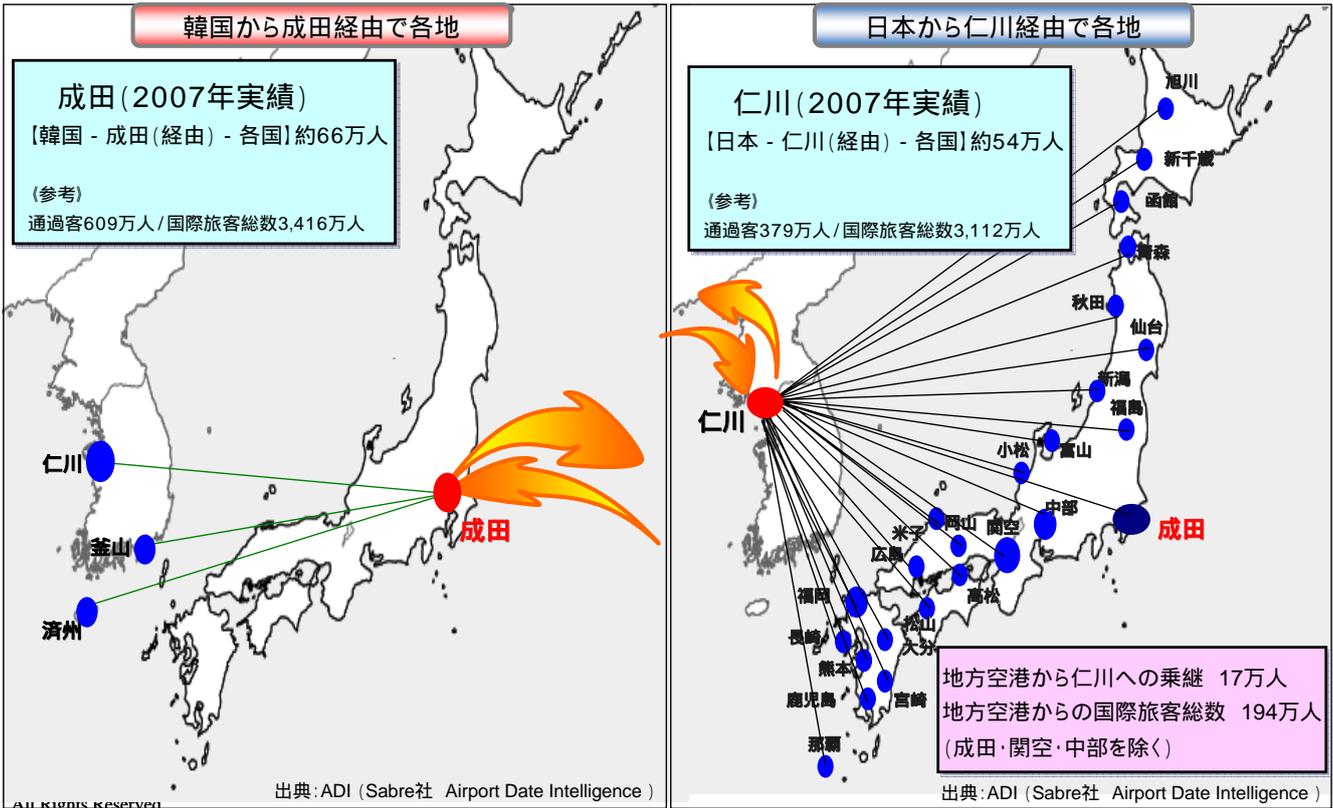
出典: 国土交通省航空局「平成19年度 国際航空旅客動態調査」

凡例 ■ 成田利用 ■ 関西利用 ■ 中部利用 (単位: 千人)

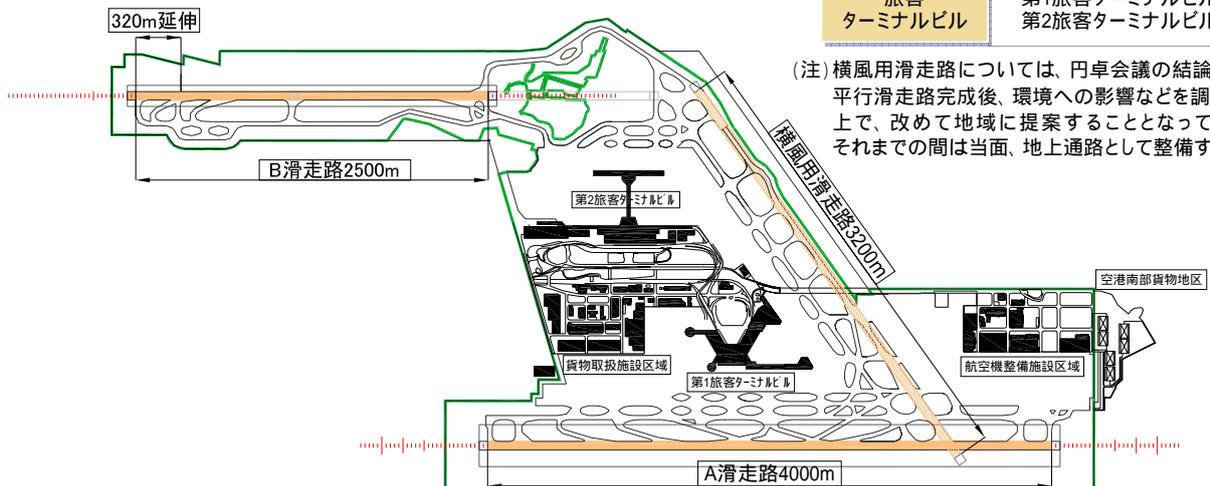


注1) ()内はシェア(%) 注2) 成数1,000人未満は四捨五入して表示していない。 平成19年・トランジット旅客総数(出発側: 成田+関西+中部): 3,454,154人

- 仁川空港経由の日本人は実は成田経由の韓国人よりも少ない。むしろ、ハブとしての機能は、いかに多くの国際線ネットワークを有するか。



- 北伸によるB滑走路の2,500m化により、大型機(ジャンボ機)の就航が可能。(2009年10月22日供用開始)
- 併せてエプロン等を整備し、空港容量は現在の20万回から22万回に2万回拡大。(2010年3月の夏ダイヤ)
- 都心と成田空港を36分で繋ぐ、成田新高速鉄道を整備中。(2010年7月開業予定)



区分	現状
滑走路	4,000m 1本
	2,500m 1本
旅客ターミナルビル	第1旅客ターミナルビル 第2旅客ターミナルビル

(注) 横風用滑走路については、円卓会議の結論により平行滑走路完成後、環境への影響などを調査した上で、改めて地域に提案することになっており、それまでの間は当面、地上通路として整備する。

